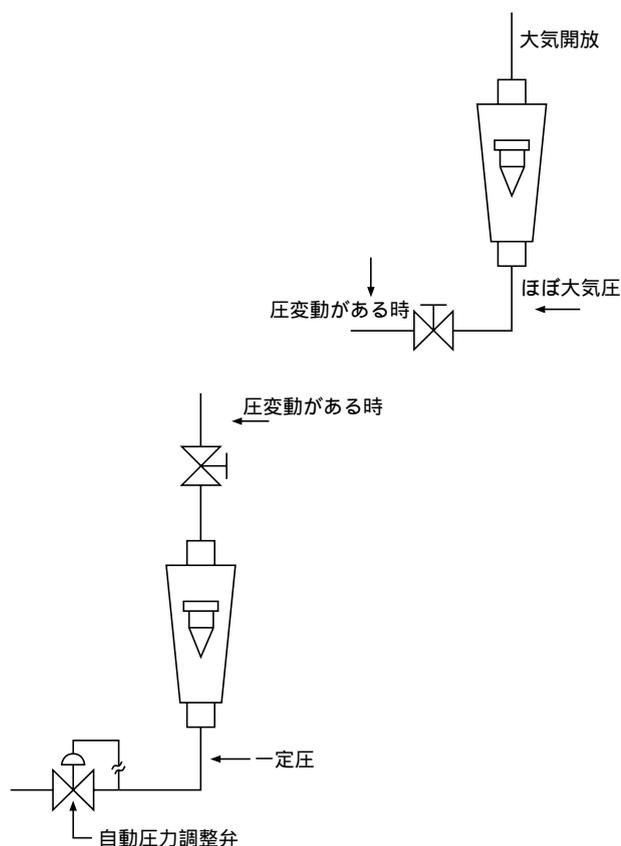


取付上の注意

1 一般的に流量計の流入側に直管部は不必要とされているが、流入側に曲管部や調整部や調整用バルブ等がある場合には流量指示値が高く指示されるので、流量計の全長以上の長さの直管部を置くことが望ましい。

2 流入側の直前にバルブ等を取り付けると、フロートが不安定になり正確な指示が確認できない場合があります。液体については流量計出口にバルブを取り付けた方が良く、気体の場合は圧縮性があるので、バルブの前後のいずれか、圧力が一定に保持できる側に流量計を取り付けることが望ましい。但し、メーカー側に於て、セットされたバルブは測定部直前にあっても、脈流・縮流の影響を考慮してテストしであるので問題はありません。

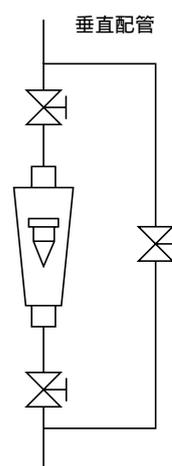
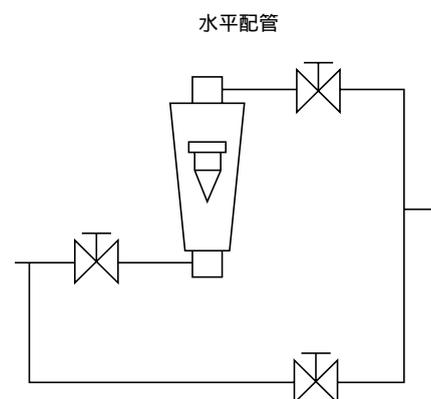


3 取り付け角度の問題については、浮子の重量を応用しているため、できる限り垂直にして下さい。上下の取り付け角度（垂直度）1度以内。

4 振動の少ない場所を選ぶこと。振動があると、浮子が不安定になりやすくなります。

5 ガラスターパー管を使用する時は、できるだけ配管に生じる応力が流量計にかからぬ様に配管を確実に固定して下さい。

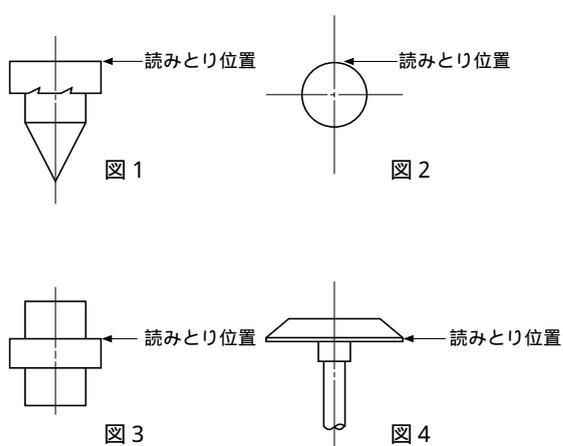
6 流量計が破損した時や再検定の時には、取りはずしすることがあるので、作業に支障をきたさぬ様できる限りバイパス管路を設けると良い。



測定および操作

まず、弁はゆるやかに開閉して下さい。急激に行くとウォーターハンマー作用を生じたり、浮子が非常に大きな力でテーパ管に衝撃を与えて破損を生じる危険があります。特にフロートガイドのないものは十分な注意を要します。

浮子の読取り位置は原則として(図1~4)の通りです。



温度、圧力、密度が流量計の設計条件に合っているか確認して下さい。

もし異なっている時は、補正表、又は補正式等にて真値を求めて下さい。

卓上形ローターメーターの扱い方

水準器をみながらレベルを定め水平をだして下さい。

その他

特殊な条件での使用の場合は御連絡下さい。